

# 岐阜県病院事業経営健全化計画(平成19年度～平成23年度)の進捗状況について

平成22年度病院事業会計決算確定時点において進捗状況を点検しました。その結果を公表します。

(点検した4つの項目)

① 地方債現在高	:	年度末における地方債の未償還残高の額です。
② 職員数	:	年度末における正規の県職員の人数です。
③ 改善額	:	経営改善により生み出した収入増や支出減を合算した額です。
④ 累積欠損金比率	:	累積欠損金と営業収益の比率です。

※ 岐阜県立病院は、平成22年4月1日から地方独立行政法人となりました。本書の「計画目標値」及び平成21年度までの「実績(見込)値」は、経営健全化計画策定当時の会計基準(地方公営企業法)に準拠しています。平成22年度以降の「実績(見込)値」は、地方独立行政法人会計基準に準拠しています。なお、平成22年度以降の「④累積欠損金比率」は、平成21年度末時点で岐阜県病院事業会計が有していた累積欠損金を地方独立行政法人が引き継いだものと仮定して計算しています。

## ① 地方債現在高

地方債現在高については、新規発行額の抑制等により、目標値以下に抑えることが出来ました。計画最終年度においても、目標を達成できる見込みです。

(i) 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	[参考]計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	28,293	29,423	28,363	28,575	24,792	29,047
実績(見込)値(B)	27,640	27,042	28,036	26,662	24,372	
乖離値(C) (A-B)	653	2,381	327	1,913	420	4,675
乖離率(D) (B/A)	2.3%	8.1%	1.2%	6.7%	1.7%	16.1%

## ② 職員数

職員数については、目標値以下に抑えることが出来ました。

平成22年度からは地方独立行政法人化により病院職員の大半が法人職員となったため、職員数が大幅に削減され、目標値を大きく上回る達成状況にあります。また、法人化後も、県から法人への派遣職員を計画的に縮小しているため、計画最終年度においても、確実に目標を達成できる見込みです。

(i) 推移表

(単位:名)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)
計画目標値(A)	1,654	1,752	1,754	1,778	1,786
実績(見込)値(B)	1,630	1,648	1,646	100	77
乖離値(C) (A-B)	24.0	104.0	108.0	1,678.0	1,709.0
乖離率(D) (C/A)	1.5%	5.9%	6.2%	94.4%	95.7%

### ③ 改善額

改善額については、目標値を大きく上回る達成状況にあります。

計画最終年度においても、目標を達成できる見込みです。

#### (i) 推移表

(単位:百万円)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	改善額合計	[参考]補償金免除額
計画目標値(A)	35	1,145	1,259	934	928	4,301	627
実績(見込)値(B)	715	<b>638</b>	1,947	2,739	2,772	8,811	
乖離値(C) (B-A)	680.0	<b>▲507.0</b>	688.0	1805.0	1844.0	4,510.0	8,184.0
乖離率(D) (C/A)	1942.9%	<b>-44.3%</b>	54.6%	193.3%	198.7%	104.9%	1305.3%

### ④ 累積欠損金比率

累積欠損金比率については、平成22年度に目標値を達成できました。

計画最終年度においても、目標を達成できる見込みです。

#### (i) 推移表

(単位:%)

	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	計画最終年度 (平成23年度)	[参考]計画前年度 (平成18年度)
計画目標値(A)	14.2	17.7	25.8	33.2	40.6	4.0
実績(見込)値(B)	11.6	<b>20.6</b>	<b>28.3</b>	29.7	30.7	
乖離値(C) (A-B)	2.6	<b>▲2.9</b>	<b>▲2.5</b>	3.5	9.9	<b>▲26.7</b>
乖離率(D) (C/A)	18.3%	<b>-16.4%</b>	<b>-9.7%</b>	10.5%	24.4%	<b>-667.5%</b>

※ 岐阜県立病院では、平成18年度から21年度にかけて大規模な施設・設備整備事業が続いたため、その後に減価償却費等が大幅に増加しています。このため、本計画は、当面の収支赤字構造(累積欠損金の増加)を前提として策定されています。

#### (ii) 要因分析

(単位:百万円、%)

	計画最終年度(平成23年度)	
	計画目標値算出時(A)	実績見込値算出時(B)
分母(営業収益等)	30,405	34,005
分子(累積欠損金)	12,334	10,432
累積欠損金比率	40.6	30.7